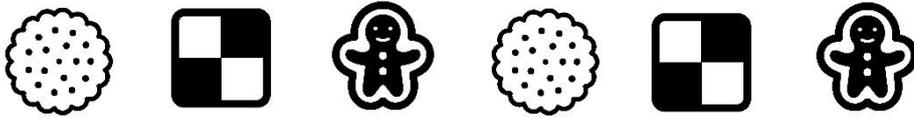
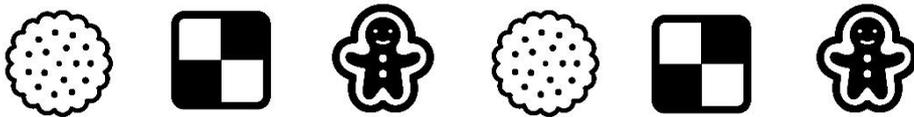


1 クッキーが6こあります。

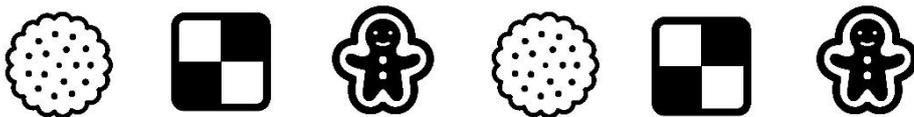
① たろうさんは、左から2こもらいました。たろうさんがもらったクッキーに○をつけましょう。



② まいさんは、右から4番目のクッキーをもらいました。まいさんがもらったクッキーに○をつけましょう。



③ けんたさんは、右から3こもらいました。けんたさんがもらったクッキーに○をつけましょう。



1 に数字を入れて、^{しき}式を^{かんせい}完成させましょう。

$$5 + \boxed{} = 7$$

$$8 - \boxed{} = 5$$

$$5 + \boxed{} = 9$$

$$9 - \boxed{} = 5$$

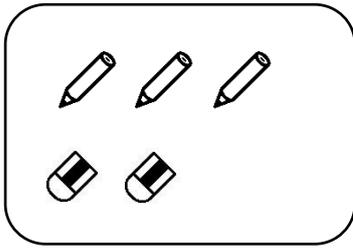
$$5 + \boxed{} = 6$$

$$6 - \boxed{} = 5$$

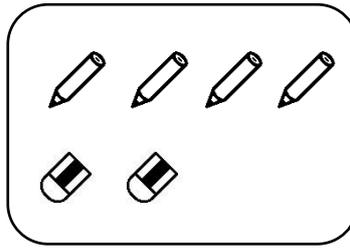
$$5 + \boxed{} = 8$$

$$7 - \boxed{} = 5$$

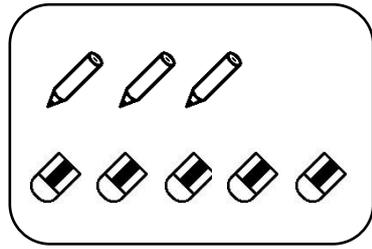
- 1 えんぴつよりも消し^けゴムのほうが2こ少ないです。
正しい図の()に○をつけましょう。



()

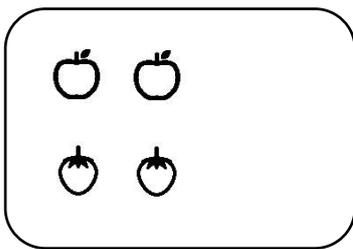


()

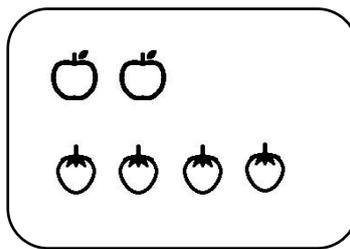


()

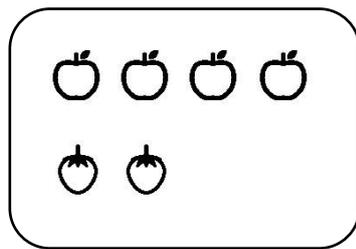
- 2 リンゴのほうが、いちごよりも2こ多いです。
正しい図の()に○をつけましょう。



()



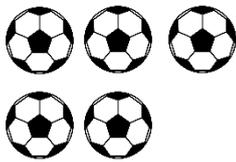
()



()

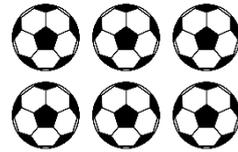
1 正しい図と式を選び、() に○をつけましょう。

① ボールが3こありました。新しいボールを2こ買いました。
ボールは全部でいくつになりますか。



$$3 + 2 = 5$$

()

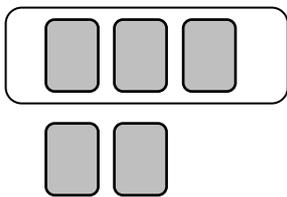


$$3 \times 2 = 6$$

()

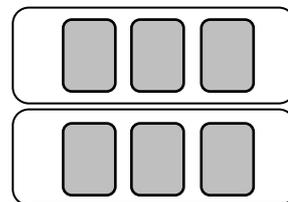
↑どちらかに○をつけましょう↑

② 1セット3まい入りのカードがあります。2セット買うと、
カードは何まいになりますか。



$$3 + 2 = 5$$

()



$$3 \times 2 = 6$$

()

↑どちらかに○をつけましょう↑

- 1 12このクッキーを、1ふくろに3こずつ入れます。



- ①上の絵のクッキーを3こずつ○で囲みましょう。

- ②「12このクッキーを、1ふくろに3こずつ入れます」
を式にあらわすと、 $12 \div 3 = 4$ になります。
このわり算の答えの「4」は、何をあらわしますか。
正しいほうの()に○をつけましょう。

() できたふくろの数

() 1ふくろにはいっているクッキーの数

- 2 わり算の文章題をときました。答えの単位は、どちらが正しいですか。正しいほうを○で囲みましょう。

20人の子どもを5つのチームに分けます。

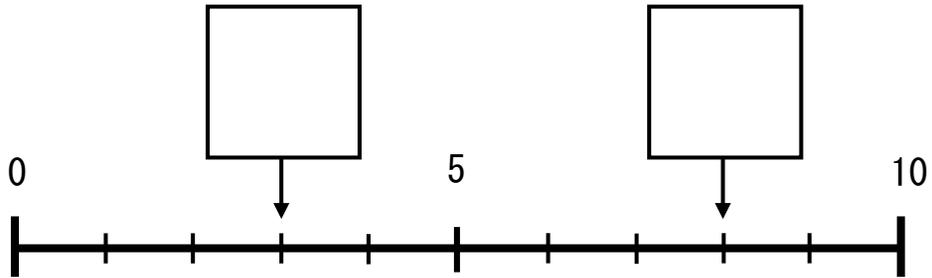
1チームあたり的人数は何人ですか。

〈式〉 $20 \div 5 = 4$

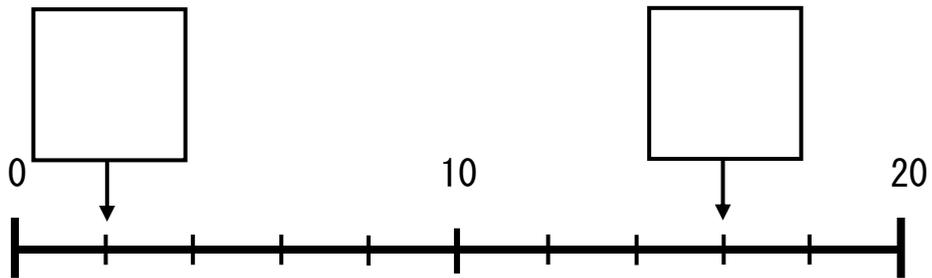
〈答え〉 4 (チーム ・ 人)

1 下のメモリを読んで、□にあてはまる数を書きましょう。

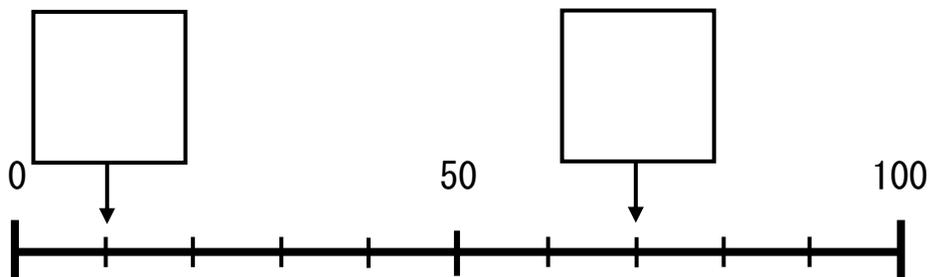
①



②



③



●ステージ1 かぞえる 解答略

【指導のポイント】

ステージ1のテーマは「数える」です。この見本では、つまずきやすいポイントとして「〇こ」「〇番目」の違いを区別する課題をピックアップしました。「左から何個(個数)」「左から何番目(順番)」を区別できるように、ていねいに見てあげてください。

●ステージ2 5の計算

14 (左の列、上から順に) 2、4、1、3 (右の列、上から順に) 3、4、1、2

【指導のポイント】

ステージ2のテーマは「5と10に関する計算」です。この見本教材では、5を元にした計算を取り上げています。

5をかたまりとしてとらえる力、10の合成分解の力は、計算力の基本になります。計算が苦手なお子さんでは、そもそも5や10がきりのいい数であるという認識が弱く、中には $10+4$ のような計算を、筆算しなければ解けない子もいます。

たし算とひき算については、学校でもおはじきやタイルを用いるなど視覚的なアプローチでの理解が中心になります。視覚認知が苦手なお子さんには、言語化することや記憶の活用、順序を大切にされた指導を繰り返すなど、さまざまな方法を検討してください。

(本教材『算数トレーニング数の基礎・計算編』には、さまざまなアプローチの問題が収録されています)

●ステージ3 くらべる 21 真ん中の()に〇 右の()に〇

【指導のポイント】

ステージ3のテーマは「くらべる」で、「〇〇よりも〇こ多い」などのような比較の言葉を正確に捉えられるようにすることが目的です。関係性を捉えることが苦手なお子さんには、とてつまずきやすいポイントになります。本ステージでは図と文のマッチングを図りながら、言葉の意味をとらえられるよう配慮しています。これらは文章題ではひき算になりますが、立式はステージ6で学びます。

●ステージ6 立式 39 ①左の()に〇 ②右の()に〇

【指導のポイント】

ステージ6のテーマは「立式」です。あくまで式が立てられることを目指していますので、計算する問題はありません。まずは問題文を理解して図とマッチングができるか(イメージ化できるか)どうかからはじめ、文だけで式を選択できるかどうか、似たような問題文を区別し適切な計算記号を選ぶことができるかどうかと、順を追ってスモールステップで学習します。この見本教材では、文章題から図と式を選ぶ問題を収録しました。

●ステージ8 わり算の意味 53 ①(解答略) ②できたふくろの数の()に〇 人

【指導のポイント】

ステージ8のテーマは「わり算の意味」です。計算についてはステージ5で学びますが、本ステージでは計算は使わず、あくまで答えが何を表しているのかを考えます。算数の苦手なお子さんでは、なんとか計算ができて、自分が何を求めていたのかが分からなくなることがよくあります。特にわり算の場合には、あまりが何の数なのかが分かりにくいようです。「式で何を求めようとしているのか」「答えの数字は何の数字なのか」を考えることは、今後いっそう難しくなる問題を解く際にとっても大切です。

【指導のポイント】

ステージ9のテーマは「図の利用」で、「線分図」と「メモリ」の2つの内容に分かれています。

メモリを読む力は、長さはもちろん、かさ（容積）の学習や棒グラフのメモリを読む時など、さまざまな場面で活用できる力です。1メモリが1ではなく、2だったり10だったりする場合の読み方は、数が苦手な子にとってはとても難しく、高学年になってもなかなか理解できない子もいます。1メモリがいくつなのかをきちんととらえるように教えるとともに、すべてのメモリの下に数字を書いていくなど、お子さんの理解度に合わせて指導してください。

『算数トレーニング数の基礎・計算編』の制作意図と活用について

本教材は、主に小学校1年生から3年生の学習内容の中から、「数の概念」「計算」のつまづきやすいポイントを復習する目的で作成しています。特に苦手さがあるお子さんを念頭に、数の概念の基礎や計算の基礎スキルを高めるためのさまざまな教材を取り入れています。特別支援教育でのノウハウを取り入れつつも、特別な方法を教え込むようなスタイルではなく、むしろ通常の算数の学習よりもステップを細分化して取り組むことでの定着を目指しています。

例えば、繰り上がりや繰り下がり、桁数の多い計算などは、市販の教材でも豊富な問題があり比較的スモールステップで取り組めるようにもなっています。これらの計算が苦手な子に対しては、繰り返し筆算のスキルを教えたり、特別な方法を伝えることで習得できることもあります。そもそもところで10の合成分解ができていないことや、数を正確に書けないため、スキルを伝えても繰り返しミスをしてしまうことになり、その背景には数の概念の獲得の問題があると思われます。そのため本教材では、たし算とひき算では5や10の計算のみを扱い、基礎的な概念の定着を図ることからはじめています。

文章題についても、文の内容理解やイメージとして捉えるという段階から、立式、計算、答えの単位を考えるなど、解くためにはいくつものステップがありますが、本教材では、図や式を選択する問題や、単位を選択する問題を設けるなど、細分化して取り組めるようにしています。

また、各ステージでの解説に記した通り、本教材は、先の学年の単元や生活力の向上を見越した上で、身につけておきたい力をポイントを絞って復習できるようにも構成しています。例えば、約分や通分で困らないようにする方法でのかけ算の復習や、お金の数え方につなげるための数列問題などがあります。

このような観点で制作をしましたが、ただ問題を解くだけでなく、必要などころに線をひいたり色分けをしながらすすめることや、類似問題で解説をしてから取り組むなど、お子さんの状態に合わせてさまざまに活用していただけると幸いです。また、主に文章題については、「計算のない文章題」として『新版読むカトレーニング』『新版読むカトレーニング基本編』も既刊となっています。合わせてご活用ください。

算数で困っているひとりひとりのお子さんに本教材が届き、成長につなげていただけることを切に願っています。

2017年4月 著者
(見本用に一部修正)

【著作権およびご利用について】

※本見本教材の著作権は、株式会社ククアに帰属します。

※本見本は、お子さまに実際にお試しいただくことを目的として公開しています。

ご家庭・学校・療育機関等でのおためし用として印刷し、ご利用いただくことができます。

※なお、本見本教材の全部または一部について、転載、送信、再配布、販売、その他これらに類する行為は固くお断りいたします。